



池田 弘

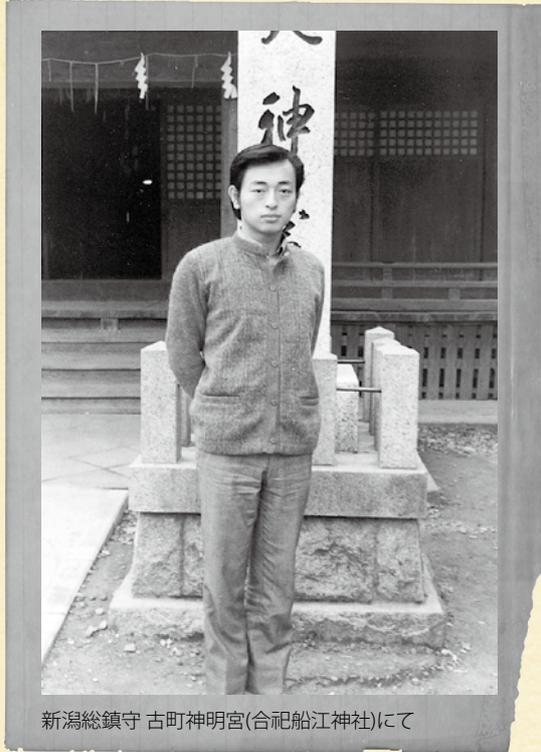
新潟総合学園
総長



宮司と、経営者と。
地域活性化を願って

写真(上)は私が生まれ育ったお宮の境内で、若いころに撮った写真です。ここに私の原点があります。現在私は教育や医療・福祉事業を中核に、39法人が所属するNSGグループの代表や、サッカーJ1アルビレックス新潟の取締役会長を務めるなど、さまざまな事業の経営に携わるとともに、二つのお宮の宮司を務めています。

私は新潟の繁華街にある神社の家に生まれ、時代の流れで



新潟総鎮守 古町神明宮(合祀船江神社)にて

シャッターを下ろしたお店が増え、地域の活気がうせていくのを見てきました。宮司を継ぐ宿命を感じながらも、このまま神社を継いでよいものかと悩みました。そして高校時代、どう生きるかを決めなければいけないときに、ガンジーの書物に出会いました。ガンジーは無抵抗主義とハンガー・ストライキで、植民地だったインドの解放を成し遂げました。その陰には、ガンジーを支えた貿易商の存在があったのです。ハンガー・ストライキで衰弱した人々に食糧を与え、治療を施すための多額の資金を用意し、活動を支援しました。「ガンジーのような聖人にはなれなくとも、こうしたサポートは私にもできるのではないか」そう考えました。



どう生きるか思い悩んでいた若かりしころ

神社には、^{さいし}祭祀を通して地域の幸せを実現するという目的があります。しかし時代が変わり、神社の仕事だけでやっていくのは経済的に難しい面もあります。宮司をやるとともに、他の収入を得る必要に迫られました。祭祀だけではなく自ら活動し、地域活性化の手伝いができるのではないか。考え抜いた私の結論は、「お宮を継ごう。それと同時に、地域のためになる事業を創業しよう」でした。

それから40年。私が代表を務めるグループは、1万人以上の雇用を地域に創り出しています。また、501社の企業の立ち上げと育成

を目指す、起業支援プロジェクトに取り組んでいます。まだ道半ばですが、新潟を世界一豊かで幸せな街にするという目標に、宮司と民間経済人の立場で生涯を懸けて取り組み、その地域活性化モデルが、日本活性化の一助になると信じ、活動してまいります。